

令和7年度にかほ市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、秋田県南西部に位置し、南に鳥海山、西に日本海を臨む、山と海に抱かれた県内で最も温暖な地域である。その立地条件を活かした水稻を主体とする農業生産を展開している。経営の発展を図るために近年では大豆やそばを中心とした集団転作による団地化が行われ、アスパラガスやリンドウ、小菊、ねぎ、いちじく等による複合経営が増加している。しかし、湿田が多く、新規需要米・加工用米・備蓄米などの非主食用米が転作作物の大部分を占めている状況であり、今後の米価変動や主食用米の消費減少に対応するためには高収益作物による複合化の更なる推進が必要である。

また、農業従事者に関しては高齢化が進み、農家戸数の減少が顕著となっており担い手育成・確保が急務となっている。

さらに、大豆等の土地利用型作物については、水田特有の排水不良による収穫量の低迷や連作障害、近年の異常気象による単収低下など年次による変動が著しいことから、収穫量の向上や生産の安定化が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水稻単作経営農家が大勢を占める当地域において複合経営を確立させるため、秋田県や地元JAでも推進しているリンドウや小菊、ねぎ等を中心とした高収益作物の作付けを支援し、作付面積の拡大を推進することで、収益性の高い複合型農業の定着を図る。

特に、産地の振興品目や特産品として有利販売が期待できる高収益作物については、関係機関と連携し栽培技術等の支援を行うことで、収量増加及び作付面積拡大による所得向上を図り、作物の産地化とブランド化への取り組みを推進する。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農家の高齢化により遊休農地が年々増加している一方で、集落営農や法人に農地の集積が進み、その多くはそばや大豆といった土地利用型作物を作付けしている。遊休農地の解消と担い手農家への集積化を図るため、引き続き集落営農や法人によるそばと大豆の作付けを支援していく。

また水稻を組み入れない作付け体系が定着している地域について、地域との話し合いや定期的な巡回により把握し、畑地化やブロックローテーション体系の構築に係る支援内容の情報提供等について助言を行う。令和4年度に秋田県が行ったアンケート調査によると、ブロックローテーションに取り組んでいる農家は大豆で30%、そばやねぎでは、ほとんど実施されていない結果となった。畑作物の定着がみられるほ場は畑地化を促進し、水稻との輪作が可能な作物は、計画的なブロックローテーションによって生産性向上が図られるよう支援を行う。

4 作物ごとの取組方針等

当地域の約 2,745ha（不作付地を含む）の水田について、適期適作を基本として産地交付金を有効活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

（１）主食用米

需要に応じた売れる米づくりを更に進めるため、地域農協の推進する土づくりの実践を基本とし、高品質・良食味米の安定生産を図る。

（２）備蓄米

主食用米価格を参考に落札価格が設定されることから、時勢を見ながら作付けに取り組む。

※備蓄米については、令和 7 年産米の備蓄米に関する政府買入の動向を踏まえ、主食用米及び非主食用米等へ変更する場合がある。

（３）非主食用米

主食用米の需要量の減少が見込まれる中、水田を最大限活用し不作付地の発生を未然に防ぐため、新規需要米・加工用米・備蓄米を作付けし、需要者とのマッチングを円滑に図り需要に応じた生産数量を確保する。

ア 飼料用米

主食用米の需給の安定を図りつつ、実需者への安定供給にむけて複数年契約による取り組みを中心とした要件による飼料用米の本作化を推進し、目標達成に向けた支援を行っていく。

イ 米粉用米

主食用米の需給の安定を図りつつ、実需者への安定供給にむけて複数年契約による取り組みを中心とした要件による米粉用米の本作化を推進し、目標達成に向けた支援を行っていく。

ウ 新市場開拓用米

減少する米の国内消費を踏まえ、米農家の所得向上を図っていくためには、新たな消費を見だし、推進していくことが重要であることから、生産者の営農安定のため、複数年契約の拡大に取り組み、将来の需要の受け皿として需要の動向を見極めながら推進していく。

エ WCS 用稲

地域内での耕種農家と畜産農家の結びつきを強化しながら、粗飼料の安定生産を図るために作付面積の拡大を図る。

オ 加工用米

主食用米に代わる作物として、今後の需要の動向を的確に把握しながら需要に応じた生産に取り組み、時勢を見ながら作付けに取り組む。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦については、地域内において取り組みはない。

大豆については、組織による作付けが普及しており、今後も作付面積の拡大を図る。また、単収の低下が地域の課題になっていることから、土づくり肥料の散布や排水対策、病害虫防除対策への取り組みを推進し、収穫量を増加させ収益力の向上を図る。

飼料作物については、需要者とのマッチングを円滑に図り需要に応じた生産数量を確保する。

（５）そば

不作付地の有効活用に資する作物として、実需者との契約を基本として作付面積の拡大を図る。

そばについては、単収の低下が地域の課題になっていることから、土壌改良剤散布や重機等による排水対策への取り組みを推進し、収穫量を増加させ収益力の向上を図る。

（６）地力増進作物

基盤整備事業実施後は、地力が低く作物の生育が悪いとの声が過去に基盤整備を実施した農業者から寄せられている。令和７年度に基盤整備が実施される地区において地力増進作物の作付け、すきこみにより、次年度からの営農に備える取り組みを支援する。

（７）高収益作物

水稻単作経営農家が大勢を占める当地域において複合経営を確立させるため、高収益作物の作付けを支援し、作付面積の拡大を推進し、収益性の高い複合型農業の定着を図る。また、地域振興作物（ねぎ、アスパラガス、業務用キャベツ、さやいんげん、さやえんどう、スナップエンドウ、ミニトマト、菊類、リンドウ、シャインマスカット）の作付けを重点的に支援し、作付面積を拡大させ、作物の産地化及びブランド化を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1,650.9	0.0	1529.3	0.0	1,529.3	0.0
備蓄米	77.7	0.0	180.0	0.0	180.0	0.0
飼料用米	19.8	0.0	60.0	0.0	60.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	1.2	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
WCS用稲	14.5	0.0	17.0	0.0	17.0	0.0
加工用米	86.0	0.0	7.0	0.0	7.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	152.5	0.0	170.0	0.0	170.0	0.0
飼料作物	9.2	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	280.0	0.0	316.5	0.0	316.5	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地力増進作物	1.6	0.0	34.8	0.0	34.8	0.0
高収益作物	61.1	0.0	53.5	0.0	53.5	0.0
・野菜	28.5	0.0	22.3	0.0	22.3	0.0
ねぎ	11.9	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0
アスパラガス	2.6	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0
業務用キャベツ	2.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ミニトマト	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
さやいんげん	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
さやえんどう	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
スナップエンドウ	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
馬鈴薯	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
枝豆	2.2	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0
トマト	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
菌床しいたけ	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ほうれんそう	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ミョウガ	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ウド	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
カナカブ	0.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
そら豆	0.9	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
玉ねぎ	0.6	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
にんにく	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ナス	0.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
タラの芽	3.4	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0
きゅうり	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
かぼちゃ	1.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
ピーマン	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
オクラ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
イチゴ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

作物等		前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
			うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
	キャベツ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	ブロッコリー	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	カリフラワー	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	チンゲンサイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ナバナ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	コマツナ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	モロヘイヤ	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	セリ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	にんじん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	大根	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サトイモ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヤマノイモ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	レタス	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	マコモダケ	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	ツルムラサキ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ハクサイ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ズッキーニ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	フキ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	菌床きくらげ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ユウガオ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ゴーヤ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	トウガラシ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ニラ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	カブ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	レンコン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サツマイモ	0.0	0.0	9.6	0.0	9.6	0.0
	・花き・花木	16.3	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0
	菊類	11.3	0.0	8.4	0.0	8.4	0.0
	リンドウ	3.0	0.0	1.2	0.0	1.2	0.0
	ペコニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ペチュニア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サルビア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	マリーゴールド	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パンジー	1.6	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0
	ビオラ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダリア	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
	シンテッポウユリ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	トルコギキョウ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	バラ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ヒマワリ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ケイトウ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ストック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	キンギョソウ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	チューリップ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

作物等		前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
			うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
	シクラメン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ハス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	・果樹	15.5	0.0	21.2	0.0	21.2	0.0
	いちじく	14.1	0.0	19.8	0.0	19.8	0.0
	キウイフルーツ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ブルーベリー	0.4	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0
	ブドウ（シャインマスカットを除く）	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
	シャインマスカット	0.8	0.0	0.8	0.0	0.8	0.0
	モモ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	・その他の高収益作物	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小豆	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	エゴマ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
畑地化		4.9	0.0	16.0	0.0	16.0	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
				（令和6年度）	（令和8年度）
1	大豆（基幹作物）	大豆収穫量増加対策支援（土づくり）	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	152.5 ha 117.1 ha 0.0 ha	170.0 ha 136.0 ha 43.0 kg/10a
2	大豆（基幹作物）	大豆収穫量増加対策支援（除草対策・病虫害対策）	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	152.5 ha 119.3 ha 0.0 ha	170.0 ha 136.0 ha 43.0 kg/10a
3	そば（基幹作物）	そば収穫量増加対策支援（土壌改良）	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	280.0 ha — 32.9 ha	316.5 ha 253.2 ha 62.0 kg/10a
4	そば（基幹作物）	そば収穫量増加対策支援（排水対策）	作付面積 取組面積 10a当たり収穫量	280.0 ha 54.5 ha 32.9 ha	316.5 ha 253.2 ha 62.0 kg/10a
5	高収益作物（基幹作物） （別紙4のとおり）	地域振興作物作付支援	作付面積	32.7 ha	18.8 ha
6	その他高収益作物（基幹作物） （別紙5のとおり）	高収益作物作付支援	作付面積	15.6 ha	14.2 ha
7	果樹（基幹作物）（別紙6のとおり）	果樹作付支援	作付面積	17.2 ha	20.0 ha
8	そば（二期作）	そばの作付の取組支援（二期作）	作付面積	0.0 ha	155.8 ha
9	大豆（基幹作物）	大豆輪作体系確立支援	作付面積 10a当たり収穫量	153.8 ha 0.0 ha	170.0 ha 43.0 kg/10a
10	地力増進作物（基幹作物）	地力増進作物作付支援	作付面積	1.6 ha	28.0ha
11	そば（基幹作物）	そばの作付の取組支援（国枠）	作付面積	280.0 ha	316.5 ha
12	地力増進作物（基幹作物）	地力増進作物への助成（国枠）	作付面積	0.0 ha	28.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:秋田県

協議会名:にかほ市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	大豆収穫量増加対策支援(土づくり)	1	8,000	大豆(基幹作物)	土づくり肥料を散布
2	大豆収穫量増加対策支援(除草対策・病害虫対策)	1	6,000	大豆(基幹作物)	中耕培土を3回以上実施、かつ種子処理等の病害虫対策を実施
3	そば収穫量増加対策支援(土壌改良)	1	2,000	そば(基幹作物)	土壌改良剤を散布
4	そば収穫量増加対策支援(排水対策)	1	10,000	そば(基幹作物)	排水対策を実施
5	地域振興作物作付支援	1	40,000	高収益作物(基幹作物)(別紙4のとおり)	対象作物の出荷・販売
6	高収益作物作付支援	1	20,000	その他高収益作物(基幹作物)(別紙5のとおり)	対象作物の出荷・販売
7	果樹作付支援	1	12,000	果樹(基幹作物)(別紙6のとおり)	対象作物の出荷・販売
8	そばの作付の取組支援(二期作)	2	10,000	そば(二毛作)	対象作物の出荷・販売
9	大豆輪作体系確立支援	1	16,000	大豆(基幹作物)	前作水稲及び団地化
10	地力増進作物作付支援	1	10,000	地力増進作物	地力増進作物の作付、すき込み
11	そばの作付の取組支援(国粹)	1	0	そば	対象作物の出荷・販売
12	地力増進作物への助成(国粹)	1	0	地力増進作物	地力増進作物の作付、すき込み

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができます。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

【地域振興作物】(基幹作物)

区分	対象作物
野菜	ねぎ
	アスパラガス
	業務用キャベツ
	さやいんげん
	さやえんどう
	スナッフエンドウ
	ミニトマト
花き	菊類
	リンドウ
果樹	シャインマスカット

【高収益作物】(基幹作物)

区分	対象作物
野菜	馬鈴薯
	枝豆
	トマト
	菌床しいたけ
	ほうれんそう
	ミョウガ
	ウド
	カナカブ
	そら豆
	玉ねぎ
	にんにく
	ナス
	タラの芽
	きゅうり
	かぼちゃ
	ピーマン
	オクラ
	イチゴ
	キャベツ
	ブロッコリー
	カリフラワー
	チンゲンサイ
	ナバナ
	コマツナ
	モロヘイヤ
	セリ
	にんじん
	大根
	サトイモ
	ヤマノイモ
	レタス
	マコモダケ
	ツルムラサキ
	ハクサイ
	ズッキーニ
	フキ
	菌床きくらげ
	ユウガオ
	ゴーヤ

区分	対象作物
野菜	トウガラシ
	ニラ
	カブ
	レンコン
	サツマイモ

区分	対象作物
花き	ベコニア
	ペチュニア
	サルビア
	マリーゴールド
	パンジー
	ビオラ
	ダリア
	バラ
	シンテツポウユリ
	トルコギキョウ
	ヒマワリ
	ケイトウ
	ストック
	キンギョソウ
	チューリップ
	シクラメン
	ハス

区分	対象作物
その他	小豆
	エゴマ

【果樹】

区分	対象作物
果樹	いちじく
	キウイフルーツ
	ブルーベリー
	ブドウ(シャインマスカットを除く)
	モモ

【地力増進作物】

①緑肥(下記のいずれかを播種)

・ヘアリーベッチ	3kg/10a以上
・ライ麦	6kg/10a以上
・ソルガム	4kg/10a以上
・エン麦	6kg/10a以上
・イタリアンライグラス	2kg/10a以上
・その他、緑肥と認められるもの	

(上記記載と同等の効果が期待できると協議会長が認めるもの)

※協議会長が認めるものについて

協議会では、課題の解決に向けた誘導が図られるよう、作業性や効果を総合的に勘案した標準的な資材を想定し、交付単価を設定している。

一方で、市場には同等の効果が期待できる資材が数多くあり、限定することはできないことから、実態に応じて協議会長が適切に判断していくこととしたい。